

地理歴史等

平成 27 年度 (前期日程)

注 意 事 項

- 1 「解答はじめ」というまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は 1 冊(本文 25 ページ、下書用紙 2 枚)で、解答用紙は 1 枚です。下書用紙は問題冊子の中に挟み込んであるので、引き抜いて使っても構いません。なお、問題冊子と下書用紙は持ち帰って構いません。
- 3 すべての解答用紙に受験番号を書きなさい。なお、受験番号は、次の要領で明確に記入すること。

(例) 受験番号 50001 番の場合 →

5	0	0	0	0	1
---	---	---	---	---	---

- 4 1) 世界史, 2) 日本史, 3) 地理, 4) 倫理, 政治・経済, 5) ビジネス基礎, 以上 5 科目のうちから 1 科目を選んで答えなさい。さらに選択科目の番号を受験番号の隣の欄に書きなさい。

(例) 2) 日本史を選んだ場合 →

					2
--	--	--	--	--	---

- 5 解答は、解答用紙の所定の位置に横書きで書きなさい。他のところに書いても無効になることがあります。

また、字数などの指示がある場合は、その指示に従って書きなさい。なお、字数制限がある場合、洋数字及びアルファベットに限り、1 マスに 2 文字入れることができます。それ以外の句読点や問題番号には 1 マスを使用すること。ただし、例えば「問 1」ならば「1」とのみ書いても構いません。

地 理

I 希少金属(レアメタル)を含む鉱物資源に関する以下の問いに答えなさい。なお、希少金属の内、スカンジウム(Sc)、イットリウム(Y)、および、ランタン(La)からルテチウム(Lu)までの17元素のグループを希土類(レアアース)と呼ぶ。

問1 表I-1は、2010年から2012年における主な希少金属の採掘量上位5か国を示している。①および②に相当する国名、および、③に相当する希少金属名をそれぞれ答えなさい。解答は、解答欄の1行目のみを利用し、①から③の番号の後に国名および希少金属名を書きなさい。

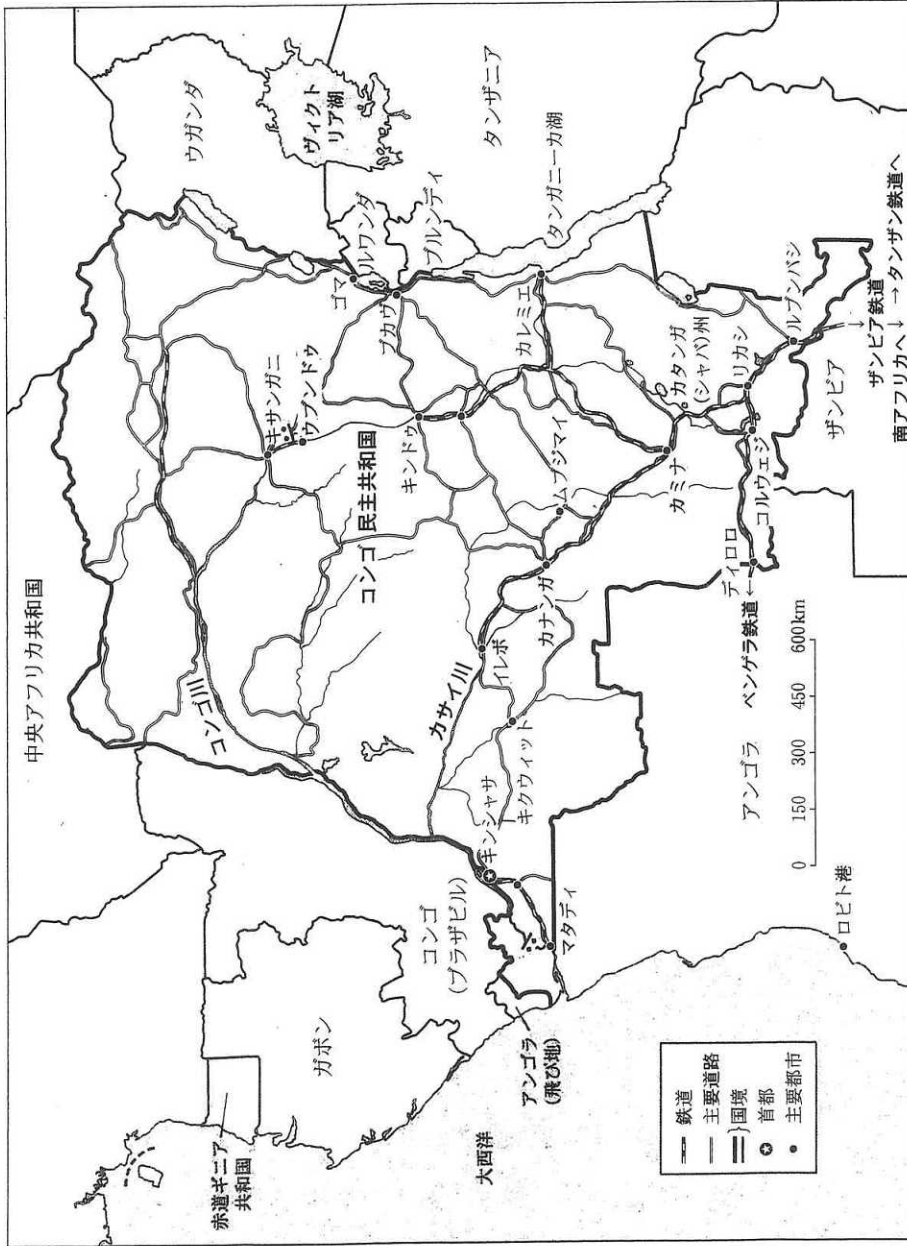
表I-1 主な希少金属の採掘量上位5か国(2010年から2012年の3年間における年平均採掘量のシェア) (単位：%)

希少金属名	1 位		2 位		3 位		4 位		5 位		
	国名	シェア	国名	シェア	国名	シェア	国名	シェア	国名	シェア	
プラチナ	①	74.7	②	13.1	ジンバブエ	5.3	カナダ	3.1	アメリカ合衆国	1.9	
マンガン	①	21.5	オーストラリア	20.3	中国	18.0	ガボン	10.7	ブラジル	7.2	
	③	コンゴ民主共和国	52.5	中国	6.7	②	6.2	カナダ	6.1	ザンビア	5.1
希土類	中国	95.0	インド	2.3	オーストラリア	1.4	②	0.6	ブラジル	0.3	

出所：Mineral Commodity Summaries 2012, 2013, 2014 より作成

問2 表I-1の希少金属③は、銅とともに採掘されることが多い。コンゴ民主共和国とその南の隣国ザンビアはともに銅と希少金属③の世界的な生産国である。銅および希少金属③は両国にまたがる鉱脈から採掘される。コンゴ民主共和国には主要な港としてマタディ港があるものの、コンゴ民主共和国で採掘される銅と希少金属③の多くは、ザンビアを経由して、南アフリカ共和国のダーバン港(鉱山地帯からの陸上輸送距離2,600~2,700 km)やタンザニアのダルエスサラーム港(鉱山地帯からの陸上輸送距離2,000~2,300 km)などから輸出されている。なぜ外国の港を使って輸出されているのか。図I-1の地図を参考にして、考えられる理由を述べなさい。なおコンゴ民主共和国をコンゴと略して書いてよい。(100字以内)

図1—1 コンゴ民主共和国の地図



出所：The Economist Intelligence Unit Limited 1998 より作成

問 3 希少金属であるニッケルは、鉍石を採掘し、それを精錬した上で、製品に利用される。表 I-2 は、2012 年におけるニッケルの主要採掘国、主要精錬国、および、精錬済みのニッケルの主要消費国を示している。そして、④から⑧には日本、中国、インドネシア、ドイツ、オーストラリアのいずれかの国があてはまる。以上を踏まえ、日本、インドネシア、オーストラリアにあてまる番号を選び、その番号を選んだ理由について説明しなさい。(150 字以内)

表 I-2 2012 年におけるニッケルの主要採掘国、主要精錬国、および、製錬済みのニッケルの主要消費国(単位：千 t)

	国名	採掘量(シェア)	国名	精錬量(シェア)	国名	消費量(シェア)
1位	④	622.2(27.4%)	⑤	590.9(31.8%)	⑤	804.9(46.6%)
2位	フィリピン	317.6(14.0%)	ロシア	266.6(14.4%)	⑥	159.3(9.2%)
3位	ロシア	268.7(11.8%)	⑥	169.6(9.1%)	アメリカ合衆国	125.6(7.3%)
4位	⑦	244.0(10.8%)	カナダ	139.8(7.5%)	韓国	107.8(6.2%)
5位	カナダ	204.5(9.0%)	⑦	129.0(6.9%)	⑧	88.8(5.1%)

出所：World Metal Statistics Yearbook 2014 より作成

問 4 下記は中国による希土類の輸出規制に関する新聞記事である。また、表 I-3 は、中国の対世界向け希土類の輸出数量枠(輸出許可枠)を示し、表 I-4 は、日本における希土類の輸入相手国を示している。これらを踏まえて、日本における希土類の輸入に関するリスクおよびその対応について答えなさい。(125 字以内)

レアアース(希土類)の供給不安が長期化する懸念が広がっている。(中略)市場では「今年の輸出許可枠が追加される可能性は低い」との見方が支配的だ。(中略)かつては輸出を奨励していた中国政府の姿勢に変化が表れ始めたのは2000年代半ばで、輸出税を賦課するなど規制を強化してきた。今年は輸出許可枠の4割削減という「誰も予測できなかった急激な規制強化」(大手商社)に踏み切り、高値誘導の姿勢を鮮明にした。

出所：『日本経済新聞』朝刊 2010 年 8 月 27 日

表 I—3 中国の対世界向け希土類輸出数量枠(単位：t)

	2006年	2008年	2010年	2012年
輸出数量枠	61,560	47,449	30,259	30,996

注：輸出数量には希土類の他に不純物も含まれている。

出所：中国商務部のデータに基づき作成

表 I—4 日本における希土類の輸入相手国(単位：t)

	2006年		2008年		2010年		2012年	
	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア	輸入量	シェア
中国	30,444	88.5%	26,201	90.5%	19,721	82.1%	7,181	58.0%
フランス	1,539	4.5%	1,264	4.4%	1,975	8.2%	1,784	14.4%
ベトナム	0	0.0%	0	0.0%	595	2.5%	1,451	11.7%
その他	2,404	7.0%	1,490	5.1%	1,718	7.2%	1,959	15.8%
合計	34,387	100.0%	28,955	100.0%	24,009	100.0%	12,375	100.0%

注：輸入量は不純物が取り除かれた純分で示されている。

注：シェアは、小数点第二位で四捨五入している。そのため、各国のシェアを足し合わせた値が合計のシェアの値と一致しない場合がある。

出所：『鉱物資源マテリアルフロー』2013年より作成

Ⅱ インドに関する以下の問いに答えなさい。

問 1 解答用紙の最初の 2 行を使って、インドと陸上で国境を接している国をすべて答えなさい。その際、その国に首都よりも人口の多い都市がある場合は、その国に下線を引きなさい。

問 2 インドは、小麦、米、綿花のいずれも生産高がここ数年世界 2 位だが、インド国内でこの 3 つの農作物が栽培されている地域には違いがある。この 3 つの農作物のうち、ムンバイ、バンガロール、チェンナイ、ハイデラバードの 4 つの都市を頂点とする四角形に含まれる地域で栽培が特にさかんなものはどれかを答え、この地域でその作物の栽培がさかんな理由を説明しなさい。(50 字以内)

問 3 表Ⅱ－1 には、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカと日本との貿易額を示したものである。A～Eのうち、日本とインドの貿易額を示しているのはどれかを、そのように考える理由とともに答えなさい。(75 字以内)

表Ⅱ－1 ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカと日本との間の貿易

単位(10 億円)

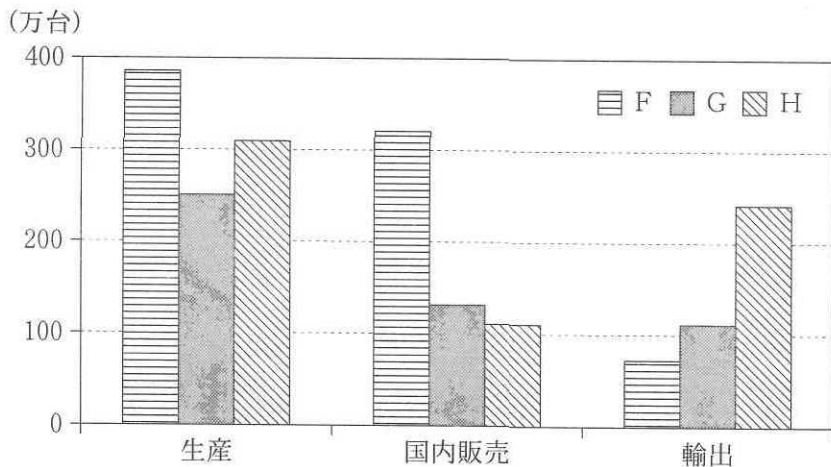
年	A		B		C		D		E	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
2011	12,902.2	14,641.9	940.7	1,513.9	882.1	543.3	494.2	1,009.1	343.7	674.6
2012	11,509.1	15,038.8	1,005.1	1,660.2	845.4	558.5	473.0	952.0	324.2	511.3
2013	12,625.2	17,660.0	1,069.3	2,307.6	839.0	690.3	552.7	1,069.7	338.0	658.8

注：表中の「輸出」は日本からその国への輸出、「輸入」はその国から日本への輸入を指す。

出所：財務省貿易統計

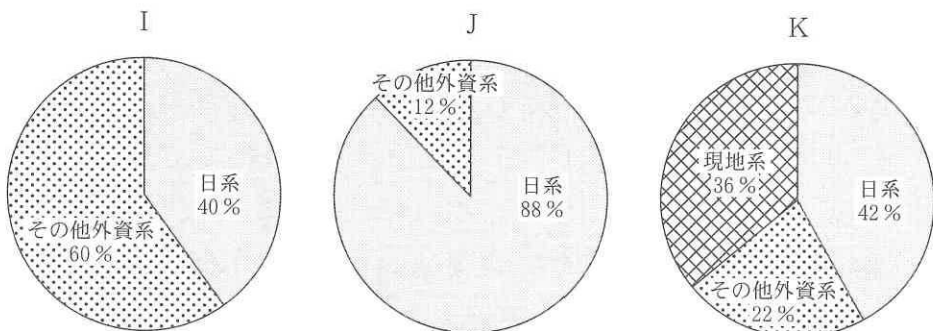
問 4 インドは世界有数の自動車生産国でもある。メキシコとタイもインドと同様に近年自動車産業が急速に発展しているが、インドの自動車産業は、メキシコやタイとは異なった特徴を持つ。図Ⅱ－1と図Ⅱ－2はインド、メキシコ、タイの自動車産業を比較したものである。図Ⅱ－1のF～H、図Ⅱ－2のI～Kのうち、インドを示すものはどれかを答え、インドの自動車産業が図Ⅱ－1や図Ⅱ－2に示されているような特徴を持つようになった理由を説明しなさい。(150字以内)

図Ⅱ－1：インド、タイ、メキシコの自動車生産台数、国内販売台数、及び輸出台数(2013年)



出所：『通商白書』2014年版

図Ⅱ－2：インド、タイ、メキシコの完成車メーカー別国内販売シェア(2013年)



出所：『通商白書』2014年版

問 5 表Ⅱ－2は、インドにおける宗教別の人口比率を示したものである。Lにあたる宗教は何か。また、その宗教にはどのような特徴があるか説明しなさい。なお、その際この宗教のインド国内における地域的分布についても言及すること。(75字以内)

表Ⅱ－2 インドの宗教別人口構成(2001年)

	ヒन्दゥー教	イスラム教	キリスト教	L	仏教	その他
全人口に占める割合(%)	80.5%	13.4%	2.3%	1.9%	0.8%	1.1%

出所：2001年インド人口センサス

Ⅲ 次の、郷土と自然保護に関する文を読んで、以下の問いに答えなさい。

子供は、幼少時に、自己の生涯の基盤となる種々のことがらを自然発生的に身につける。例えば、母語を聞き取り、話す能力を習得し、親の顔だちや、日常生活空間の地形や地物があつまった全体が編成する「場所のすがた」¹を脳裏に刻み込む。これらは、身体に一体化し、心の重要な一部を構成して一生消えることがない。

しかし、何らかの外的要因で、それらと別離しなければならなくなったとき、人の感情には、大きな動揺や変動が生ずる。このような「空間と身体との自生的結合」²の破断は、個人的な別離として生ずることもあるし、「場所のすがた」が外部の原因によって破壊されるところから生ずることもある。

これを阻止しようとする感情が、「場所」を護るための自然保護運動の動機となることがある。東京電力の前身の一つである関東水電は、1922年、福島県、【㉗】県、【㉘】県の三県にまたがる尾瀬ヶ原をほぼ全部水没させて人造湖とし、水力発電を行なう権利を獲得した。尾瀬ヶ原は、電源開発が広範になされた【㉙】川水系³にある。これに対し、当時林産加工や養蚕などが主要産業であった地元の南会津郡檜枝岐村の平野長蔵は、権威を恐れず敢然と反対運動に立ち上がり⁴、自然保護よりも電源開発で経済発展を図ることが優先だとする当時主流の考え方に對抗して信念を貫き、尾瀬沼の畔に自身が築いていた小屋(現在の長蔵小屋)に立てこもり、内務省にダム計画を取りやめる訴願を行なったものの、相手にされなかった。

平野長蔵が始めた尾瀬の自然を保護する運動は、戦後になってようやく、人々の支持を集めはじめた。尾瀬を通過する、会津地方と沼田とを結ぶ古くからの通商路だった沼田街道を自動車の通れる道として開発する計画⁵は、尾瀬の自然保護運動の高まりの中で、自然破壊であると批判され、環境庁も計画中止に回って撤回された。いまでは、尾瀬は独立した国立公園となり、【㉚】条約湿地に登録されて、各地から観光客を集めている。しかし、人々の心に癒しを与え続けるその自然が、身体と一体化した自然を護りたい地元の人の血のにじむような運動の成果であることを知る人は、いまやさほど多くない。

問 1 上の文の下線部 2 が示す、「空間と身体との自生的結合」は、日常の生活圏にかかわるメンタルマップ(頭の中の地図)に、子供の親愛の情が成長と共に埋め込まれていったものと捉えることができる。その破断から生じる変動は、ドイツの曲に日本人がつけた次の歌詞に、巧みに表現されている。

つくし摘みし岡辺よ 社の森よ
小鮒^{こぶな}釣りし小川よ 柳の土手よ
別るる我を 憐れと見よ さらば故郷
さらば故郷 さらば故郷 故郷さらば

此^{こゝ}処に立ちて さらばと 別れを告げん
山の蔭の故郷 静かに眠れ
夕日は落ちて たそがれたり さらば故郷
さらば故郷 さらば故郷 故郷さらば (吉丸一昌作詞、一部略)

この歌詞にある、いま故郷から別離しなければならなくなった人物の子供の時代における日常の生活圏にある地形ないし地物を、歌詞にいくつかある中から 2 つ挙げなさい。そして、下線部 1 がいう「場所のすがた」に対してその人物が抱くメンタルマップが、別離に際しどのようなようにつくられていっているか説明しなさい。(75 字以内)

問 2 上の文の空欄⑦から⑩に、あてはまる語を入れなさい。解答は、丸つき記号と共に、⑨=大阪のように、解答用紙の 4 行目に記しなさい。

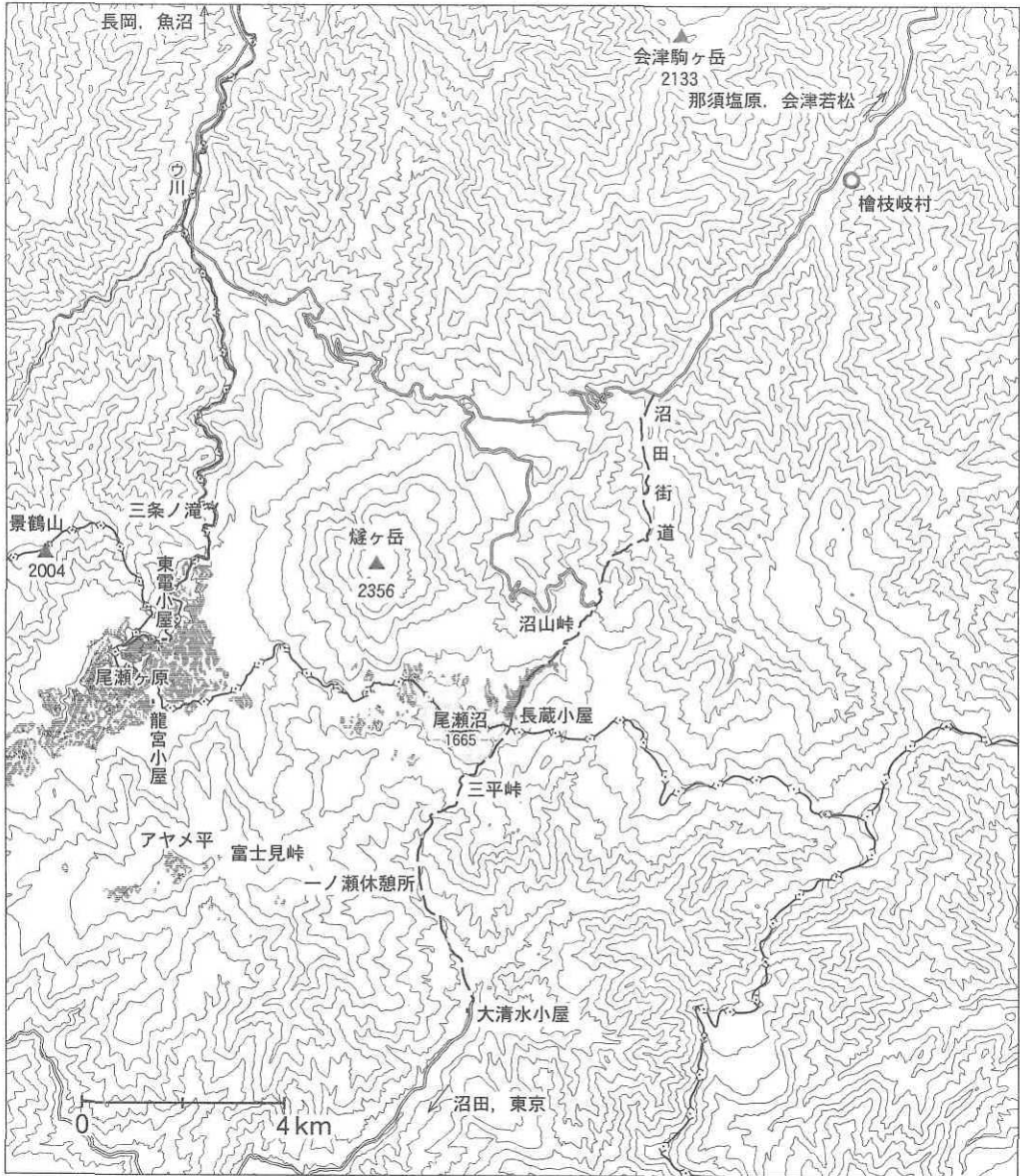
問 3 下線部 3 に関し、尾瀬ヶ原のような湿原が発電ダム湖として適している自然地理的理由を、湿原の形成過程を踏まえて一般的に述べなさい。(75 字以内)

問 4 下線部 4 に関し、同様にして、地元の自然破壊反対運動に信念を貫いた人物が、渡良瀬川の流域にもいた。この自然破壊のもととなった鉱害をつくりだした鉱山名、ならびに反対運動に立ち上がった人物の名を記しなさい。解答は、解答用紙の 8 行目に、鉱山名、人名の順に記すこと。

問 5 下線部 5 に関し、沼田街道に自動車を通れるよう開発することは、当時の檜枝岐村の主要産業の発展のために重要であったから、道路開発実現の要求も地元が強かった。なぜ、道路開発が必要だと考えられたのか、理由を説明しなさい。(100 字以内)

問 6 その後檜枝岐村ではその主要産業が衰退し、保護された自然で心の癒しを得る等のため尾瀬を訪れる人々が宿泊、食事、土産物購入等で村に落とす観光収入が地域経済を支えるようになった。これに伴い、檜枝岐村では、沼田街道を自動車を通れるよう開発することを求める声が消えていった。それはなぜか。自然保護以外の理由を説明しなさい。(100 字以内)

図Ⅲ—1 尾瀬・檜枝岐村周辺地図



注：等高線の間隔は100 m。